2023.10.20

DI ニュース No.562

《ビーフリードに遮光カバーは必要か？》

病棟よりよく問い合わせがくる上記の件について、製造メーカーの Q&A をお知らせ致します。

Q.ビーフリードを投与する場合、遮光カバーは必要ですか？

A.ビーフリード輸液に他の薬剤を混合せず、室内散乱光下にて投与する場合は、遮光カバーをつける必要はありません 。
しかし、直射日光など光が強く当たる場合や、光分解されやすいビタミン剤などを混合した場合には、遮光カバーを用いるなど十分注意してください [1)]。

【参考】
・ビーフリード輸液を混合後、室内散乱光下(約 500lx)で保存した安定性試験において、7 日後の含量は、いずれの試験項目も表示量の 95%以上であった [2)]。
・ビタミン B1 の光分解は短時間では起こりにくいが、状況に応じて遮光カバーを用いるなど、注意すること。また、その他ビタミン剤等を混合した場合には、ビタミンの光分解を防ぐため、遮光カバーを用いるなど、十分に注意すること [1)]。

1) ビーフリード輸液 電子添文 2022 年 12 月改訂（第 1 版）
2) ビーフリード輸液 インタビューフォーム 2023 年 3 月改訂（第 10 版

（大塚製薬 HP より抜粋）

- ビーフリードは単独で投与する場合、遮光カバーは必要ありません。
- 直射日光が当たる場合やビタミン剤などを混合した場合には遮光カバーをつける必要があります。

ご確認よろしくお願い致します。

薬剤科　内線（2411）